

【参考資料】 平成21年度 実績報告(恵南森林組合)

作成日:平成22年4月30日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	178.03	131.18	73.7%	H22予定:144.29ha	人工林:施業同意レベル 天然林:長期受委託レベル
いつ	4月~3月	4月~3月	/	年間を通じて森林所有者に対する働きかけを行うが、間伐等本格施業前の春~夏を強化期間とする。森林組合職員及び森林組合任命の森林整備推進員による森林所有者への働きかけを強化する。組合広報誌や総代会資料に掲載してプロジェクトのPRを行う。個別訪問以外に座談会を開催して施業集約化を推進する。	
誰が	施業集約化担当: 小林太郎(管理課)	施業集約化担当: 小林太郎(管理課)			
どういつ方法で	広報誌への掲載 個別訪問 座談会	広報誌への掲載 個別訪問 座談会			

植栽	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	—	0ha	—	H22予定:1ha	
いつ	—	—	/	長期育成循環施業後、10月までに植栽を行う。 恵南森林組合 環境林は、地域に自生する広葉樹の天然更新を誘導し、針広混交林化を図る。 生産林は、伐採跡地にスギ・ヒノキを植栽する。	
誰が	森林整備担当: 山田昭文	森林整備担当: 山田昭文			
どういつ方法で	環境林は広葉樹、 生産林はスギ・ヒノキを天然更新・ 植栽	環境林は広葉樹、 生産林はスギ・ヒノキを天然更新・ 植栽			

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	2	0	0.0%	H22予定:2ha	
いつ	7月~9月	7月~9月	/	下刈は夏期、除伐は適期に行う。 恵南森林組合 下刈、雪起しは植栽の年から5年間毎年実施する。	
誰が	森林整備担当: 山田昭文(森3課)	森林整備担当: 山田昭文(森3課)			
どういつ方法で	適期に実施し植栽 木の生長を促進	適期に実施し植栽 木の生長を促進			

切捨間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	90	26.74	29.7%	H22予定:80ha	
いつ	4月~3月	4月~3月	/	年間を通じて切捨間伐を行う。 恵南森林組合 若齢林分の生長促進及び未整備林の環境改善を図るため、積極的に間伐を行う。	
誰が	森林整備担当: 山田昭文(森3課)	森林整備担当: 山田昭文(森3課)			
どういつ方法で	既設市道等へ搬出できない箇所を切捨間伐	既設市道等へ搬出できない箇所を切捨間伐			

利用間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	25	27.90	111.6%	H22予定:28ha	
いつ	4月~3月	4月~3月	/	梅雨、降雪期間を含めてできる限り年間を通じて素材生産を行う。 恵南森林組合 新規開設した作業道を積極的に活用して利用間伐を行う。	
誰が	素材生産担当: 山田昭文(森3課)	素材生産担当: 山田昭文(森3課)			
どういつ方法で	既設市道等へ搬出できる箇所は利用間伐	既設市道等へ搬出できる箇所は利用間伐			

主伐(択伐)	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	—	0ha	—	H22予定:1.96ha	
いつ	10月、3月	10月、3月	/	適期に伐採を行う。 恵南森林組合 森林所有者に対し施業収支を明らかにした森林施業プランを提案し、施業集約化を推進する。	
誰が	素材生産担当: 山田昭文(森3課)	素材生産担当: 山田昭文(森3課)			
どういつ方法で	長期育成循環施業(帯状伐採)	長期育成循環施業(帯状伐採)			

作業道開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.6m、L=760m	W=3.6m、L=566m	74.5%	H22予定:1,670m(幹線)	開設コスト: 14,000円/m
	W=3.0m、L=150m	W=3.0m、L=52m	34.7%	H22予定:0m(支線)	" : 2,500円/m
	計 L=910m	計 L=618m	67.9%		
いつ	4月~3月	4月~3月	/	梅雨、降雪期間を除き、できる限り年間を通じて開設を行う。	
誰が	路網整備担当: 山田昭文(森3課)	路網整備担当: 山田昭文(森3課)		恵南森林組合	
どういつ方法で	設計・施工:地元 土木業者 管理:恵南森林組合	設計・施工:地元 土木業者 管理:恵南森林組合		路網整備と高性能林業機械を組み合わせた素材生産の低コスト化を実現するため、作業道を先行して開設する。	

素材生産	新規チーム設立(H21)	内容			
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		<路網系>伐倒:チェンソー→集材:グラブ(0.45)→造材:プロセッサ(0.45)→積込:グラブ(0.45)→トラック(8t)			
素材生産チームの人員数(人)	実施前 → 実施後 (H20) (H21)	1チーム(3人/班)			
実稼働日数(日)		132			
素材生産性(m <sup>3</sup> /人・日)		3.58			
素材生産費(円/m <sup>3</sup> )	H21計画(実績)	間伐:8,100(10,500)円/m <sup>3</sup> 主伐(帯状):7,500(15,000)円/m <sup>3</sup>			
年間素材生産量	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
モデル団地内	1,500m <sup>3</sup>	1,182m <sup>3</sup>	78.8%	H22予定:1,700m <sup>3</sup>	
モデル団地外	-	231m <sup>3</sup>	-		
合計	1,500m <sup>3</sup>	1,417m <sup>3</sup>	94.5%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
地域にあった施業体系の確立	3箇所所で定点観察を実施。	調査結果を地位別樹高曲線等を活用して解析し、今後の施業方針を決定(単位:箇所)。	引き続き、定点観察地点を設定(3箇所/年)し、林分調査を実施。
地域にあった作業道開設方針の確立及びガイドラインづくり	既設基幹道の補修の中で特に排水処理等について試行錯誤しつつ取り組んだ。	定点観察による経過調査(単位:箇所)。	50mm/hを超える降雨後等に開設箇所を巡回し、耐久性を調査。
低コスト作業システムの確立	未実施	コスト分析シート等による検証(単位:箇所)。	架線系新システムを実施。
林分調査手法の確立	未実施	素材生産の計画数量と実績の比較(単位:箇所)。	毎木調査による計画数量の検証(2箇所/年程度)。
定点観察(林分調査・谷水濁度調査)	定点観察を実施(林分調査3・濁水調査3箇所)。	調査結果を地位別樹高曲線等を活用して解析し、今後の施業方針を決定(単位:箇所)。作業道開設に伴う谷水への影響を調査(単位:箇所)。	林分調査を実施(3箇所/年)。濁度調査を実施(3箇所/年2回)。
森林施業計画による地域森林管理体制の構築(総合森林整備計画の手法確立)	集約化作業を中心に中間結果をまとめた(別紙資料)。	採算性が合う計画的な森林整備を実施(単位:回)。	集約化から施業までの結果を検証。林分・境界調査の結果を組合のGIS及び県の森林簿に反映させる。
所有者に対するアンケート調査	未実施	所有者の満足度把握(単位:回)。	H21年度施業地の全所有者を対象にアンケート調査を実施(H22年度中に1回/年)。
恵南森林づくり協議会(PDCAサイクル)	未実施	団地外への森プロの普及(単位:団地)。	協議会を開催し、森プロの検証と普及を図る(H22年度中に1回/年)。
串原中学校に対する林業教室の実施	未実施	中学生の森林づくりに対する理解度把握(単位:人)。	H23年度の実施に向けて、森林3課担当者が準備。
環境貢献(廃棄資材処理・林内清掃)	各現場(H21:5箇所)において実施中(1回/年)。	ミーティングにおいて各自が報告(単位:回)。	引き続き実施。
マスコミ・HP・広報誌等を活用した情報発信	組合HP(ブログ)を通じて情報発信中。	マスコミ等による取材件数	引き続き各種情報発信に務める。
建設機械レンタル会社との連携	未実施	建設機械のレンタル価格の10%値下げ(単位:%)	H23年度の実施に向けて、森林3課担当者が準備。
合板工場に向けた対応	未実施	建設機械のレンタル価格の10%値下げ(単位:%)	H22年秋以降の試験稼働に向けて、3課長を中心に事業地及び供給方法を検討。
長期育成循環施業の活用	未実施	実施面積(単位:ha)	H22年度の実施に向けて、チームリーダー及び副主任が準備。
育成天然林施業の実施	未実施	実施面積(単位:ha)	H23年度の実施に向けて、森林3課担当者が準備。
団地内材を使用したベンチの贈呈	未実施	贈呈台数(単位:台)	H23年度の実施に向けて、森林3課担当者が準備。